



誰かが踊り出す。
空気が一瞬で変わる。



ダンス部

香

川大学ダンス部のメンバーは約40人。そのほとんどが入学するまでダンス未経験です。部長の松岡由布子さん(教育学部2年)も「私も高校ではテニスをやって、ダンスには縁がなかったんです。でも新歓祭でダンス部の発表を見て、かっこいい!と思って。友人に誘われて体験入部して、そのままハマりました」。ダンスといっても、男子はブレイクダンス、女子はヒップホップやガールズヒップホップ、ジャズダンスなどジャンルはさまざま。練習は約2時間、月・木曜の週2回集まっています。取材に伺った5月はじめは新生が入ったばかりということもあり、前半1時間は基礎練習に集中していました。「特に1年生はまず基礎を身につけます。でないと体が動きません。やりたい動きがあるのに体がついていけない辛さは自分たちも経験してますから…」と言うのは、間野元希さん(法学部2年)。夏休み前までは基礎練習を中心に行い、秋からは学祭に向けての練習が始まります。「発表の場は学祭や新歓祭など、学内が中心です。でも去年は初めて高松まつりのダンスイベントに出たんですよ。学外でダンスをする機会はなかなかないので、親が見に来た部員もいるんです」。部としての活動とは別に、OBやその友人が開くダンスイベントに、有志で出演したりもするそうです。

いまダンス部では、来年、香川で開催されるインカレへの出場をひとつの目標としています。「部員それぞれにダンスの好みや実力も違いますし、全体をまとめて1つのダンスを作るのは難しいと思うけど、チャレンジしてみたいんです。学祭が終わると、今の1年が活動の主力になるので、私たちが協力しながら、インカレまで全員の意識を高めていきたいです」と松岡さん。

40人もの部員の意見をまとめるのは大変では?との質問には、「全員でものごとを決めていくので、意見を言いやすい雰囲気だと思います。みんなが支えてくれるとわかっているので、部長としてはプレッシャーはないですよ」と、チームワークのよさを感じる答えが返ってきました。「ダンス部は体育会系とは言っても、上下関係はそんなに厳しくないし、秩序を保ちながら楽しくやろう、という方針です。OBやその仲間が気軽に教えに来てくれたりもします。自分が上達するのうれしいけど、グループで踊りをびたっと合わせて、完成した時の喜びは大きいです」。その喜びを知ってしまったら、もうダンスから離れられない。そのかっこよさ、まずは学祭でごらんください。



学部の学生で結成されているボランティアサークル「ひばり」。高松市内の病院が主催する、自閉症や多動障害など障害を持つ子どもとその家族を対象にした「おひさま教室」のイベントに、毎月1回、スタッフとして参加しています。日曜日の朝、タイトルを聞いただけでも面白そうなイベントが始まります。田植え前の水を張った水田に入る「どろんこ遊び」。コトデンでお出かける「電車に乗ってみよう」。秋の「いも掘り」。「スキー場で雪遊び」という大山1泊旅行もあります。

代表の新村直子さん(医学部6年)は企画を練るのが楽しいと言います。「『電車に乗ってみよう』のときにはオリジナルの切符を作りました。電車に乗り慣れていない子にとって、切符はとてもめずらしいもの。本物の切符は回収されてしまいますが、私たちが作った切符にも、駅員さんにハサミを入れてもらったんです」。持って帰れる切符に子どもたちは大喜び! その姿を見て喜びがこみあげてきたという新村さんです。「どろんこ遊び」も学生たちが企画し、今や毎年参加者が多い人気イベントとなりました。泥まみれになりながら田んぼの中を走り、笑う、子どもたちと香大生の楽しそうな姿を、みなさんも写真でご覧ください。

「おひさま教室」では毎回、子ども1人に2人のスタッフで行動します。「最初はこちらの顔を見てくれない子が、だんだん笑ってくれるようになるんです。別れ際に『もっといっしょにいたい』と言われると、通じ合えたのかなと思って嬉しくなります」。そう語るのはいまひとりの代表、門口倫子さん(医学部6年)。「参加しはじめた頃は子どもたちにどうやって接したらいいかわからず、自分の方を向いてくれないとすごく焦っていました。今はようやく、相手のペースに合わせて対応できるようになれたかな」。ひとりの人と向き合い、時間を重ねるサークルだから、立ち止まって考えることもあれば、お互いに分かり合える瞬間もあると言います。時にはお母さんの悩みや体験談を聞くことも。「泣きながら話されるお母さんにもらい泣きしたり…。子どもさんに対する愛情や気配りなどは、机の上だけでは学べません」と門口さん。ともに笑い、ときに泣き、人の中に積極的に入っていく経験が、人に対する理解を深めていくのかもしれない。毎月の出合いを胸に、「ひばり」たちは人の心に入っていける医師・看護師をめざして、大きく羽ばたこうとしています。

児童問題研究会 ひばり



笑顔との出合いが、
ここにはあります。